

# 学校保健

S C H O O L H E A L T H

2022. 9 No. **356**

公益財団法人  
**日本学校保健会**  
JAPAN SOCIETY OF SCHOOL HEALTH

<https://www.hokenkai.or.jp/>

## 学校等欠席者・感染症情報システムについて

公益財団法人日本学校保健会 専務理事 **弓倉 整**



2022年7月、新型コロナウイルス感染症患者が急激に増加し、第7波となっている。学校等欠席者・感染症情報システムは2013年から公益財団法人日本学校保健会が運営を引き継ぎ、日々の欠席等の情報を保育所、学校、教育委員会、保健所、学校医、県の衛生部局等で同時に共有し、感染症アウトブレイクの感知、リアルタイムの流行状況を把握できるものである。COVID-19の流行により、学校及び保育所等のサーベイランスを行うための方策として注目され、2020年度から弓倉が厚生労働省の「新型コロナウイルス感染症等の感染症サーベイランス体制の抜本的拡充に向けた人材育成と感染症疫学的手法の開発研究」(鈴木班)の分担研究者となり、①本システム導入状況調査、②人材育成のためのオンライン研修会、③教育委員会とヒアリング、④アンケート結果等から得た本システムの課題に対するソフトウェア改修、⑤校務支援ソフトとの連携、⑥リアルタイムで情報を視覚化し地域単位のアウプットを提示し直感的判断に優れたダッシュボードとしてマップビューシステムを作成したところである。2022年度は本システムのさらなるブラッシュアップを行う予定である。感染症はCOVID-19だけではない。インフルエンザの流行なども踏まえ、学校関係者には本システムへの参加と利活用をお願いしたい。

### 主な誌面

**特集** GIGAスクール構想とICT教育時代の学校保健  
学校環境衛生基準における急光及び照明と輝度対比・・・2～3  
シリーズ②「健康教育をささげる」養護教諭の立場から  
ICT化の推進に伴う保健管理・保健教育の課題と展望・・・4～5  
全国健康づくり推進学校表彰校の実践③  
熊本市立城東小学校・・・6～7

**児童生徒における口腔機能の維持向上**  
「喫煙、飲酒、薬物乱用防止に関する指導参考資料の改訂」  
学校保健 その原点到立ち返る  
―(一社)日本学校保健学会第67回学術大会―・・・12～13

### 思春期の皮膚トラブル研修会 ～皮膚科医が教える思春期の肌の健康～

養護教諭の先生方にご好評いただき、今年度で3度目の開催となりましたオンラインセミナーのご案内です。

保健指導に役立つ正しいニキビの付き合い方、知っておきたい肌トラブル対策について最新情報を交えてお伝えいたします。ぜひご参加ください。



主催：公益財団法人 日本学校保健会

共催：マルホ株式会社

日時：11月12日(土) 13:00～14:30

登壇者(予定)：川島 裕平先生(慶應義塾大学医学部皮膚科)他

参加費：無料



\*申込・詳細は決定次第、学校保健ポータルサイト (gakkohoken.jp) でご案内いたします。

### 回覧

校長	教頭	保健主事	養護教諭	養護教諭	養護教諭	PTA会長	学校医	学校歯科医	学校薬剤師

【お知らせ】「学校保健」は年6回(奇数月)の発行です。学校保健委員会の参考に学校三師の方々へもご回覧ください。

## 特集

## GIGA スクール構想と ICT 教育時代の学校保健

第3回 / 全5回予定

## 学校環境衛生基準における採光及び照明と輝度対比

公益社団法人日本薬剤師会 学校薬剤師部会 幹事 川村 仁

## はじめに

令和3年度学校保健統計調査(速報値)によると、裸眼視力1.0未満の者は小学校で36.87%、中学校で60.28%、高等学校で64.41%に達し、小学校および中学校は過去最高となった。昭和54年から令和3年までの42年間で、小学校2.1倍、中学校1.7倍、高等学校1.2倍と上昇しており小学校が最も高い。

視力低下(近視)の環境要因として、近業や屋外活動が少ないことの関与が示されている<sup>1)</sup>。新型コロナウイルス感染症による屋外活動自粛、スマートフォン、ゲーム機などの普及も影響し、視認対象物を近くで見えて作業することにより前かがみの姿勢などを典型例として、目が近づきすぎてしまいピントを合わせようとして眼球が伸びるために近視が進行すると言われている。

一方、文部科学省は1人1台端末や高速通信ネットワークなどの学校環境を実現するGIGAスクール構想を推進しており、端末活用状況等の実態調査(令和3年7月末)によると、全国の自治体の96.2%が全ての児童生徒が学習者用電子端末を活用できる環境の整備を完了しており、学校現場での電子端末の普及率は飛躍的進展を遂げている。

現下の状況を鑑み、文部科学省は児童生徒の健康に留意してICTを活用するためのガイドブック<sup>2)</sup>を作成している。

## 反射光型と自発光型教材

ICT導入に伴う使用教材は以下に大別される。

1. 大型提示装置：プロジェクター・電子黒板「**反射光**」、デジタルテレビ「**自発光**」
2. 学習者・指導者用コンピュータ：タブレット・ノートPC「**自発光**」
3. 実物投影装置：教科書等「**反射光**」

リアルタイム投射

古来、授業は教科書を用い、教員の板書を視認しノートへの転写が基本であった。しかし、学校教育へのコンピュータ導入初期はコンピュータ教室として専用の特別教室の活用に始まり、現在は、デジタルテレビ、ノートPC、タブレットPC、電子黒板など多様な教材が普通教室で使用されている。

この変化は、「**反射光**を見る授業(照度)」から「**自発光**を見る授業(輝度)」への転換でもある。

ヒトは、文字(物体等)を確認するためには、目に入ってきた光線が、角膜や水晶体を通して、網膜で焦点を結び、その情報が視神経を通して脳へ伝わり物体として認識される。

そのため、視認するために光量が必要となり、光量が少なければ(暗ければ)ヒトは視対象物を視認できない。そこに反射光としての照度、自発光の輝度が存在する。

つまり、「**反射光**」は教室が暗いと視対象物は見えにくくなる。しかし、「**自発光**」は教室が暗くても、電子端末自ら発する光により視認が可能となり、学校環境へ照度+輝度の概念が付加される。輝度と照度の関係は図1の通り。

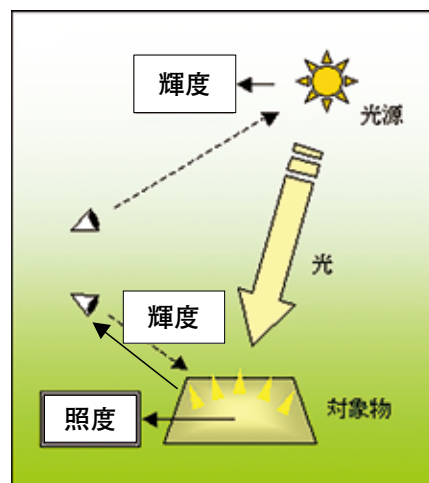


図1 照度と輝度の関係<sup>3)</sup>

## 学校環境衛生基準とICT機器

学校環境衛生基準（一部抜粋）では教室の採光及び照明の基準がある。

### 1. 照度

照度とは、光源から対象物に向かう光の強さを光度というが、その対象物が受けている光の量（明るさの程度）のことをいう（図1）。

- (ア) 教室及びそれに準ずる場所の照度の下限値：300 lx（ルクス）とする。また、教室及び黒板の照度：500 lx以上であることが望ましい。
- (ウ) コンピュータ教室等の机上照度：500～1,000 lx程度が望ましい。
- (エ) テレビやコンピュータ等の画面の垂直面照度：100～500 lx程度が望ましい。

### 2. まぶしさ（グレア）

- (ウ) 見え方を妨害するような電灯や明るい窓等が、テレビ及びコンピュータ等の画面に映じていないこと。

当該基準は、自発光型であるテレビやコンピュータにも望ましい照度基準を設定し、画面への映り込みは、まぶしさ（グレア）の有無により判断する。

グレアは、視野の中に飛び抜けて高い輝度の物や、強すぎる輝度対比の物があると、見え方が低下し不快な感じを受け、照明の質を左右する最も大きな因子でもあり、ICT教材では明るい窓からの光や光源が映り込んで文字などの可読性が低下する反射グレア（図2）が生じた場合には対策を講じる<sup>2)</sup>。

一方、視対象物の視認性を左右する条件として、「明るさ」、「対比」、「色」、「大きさ」、「動き」があり、明視の5条件というが、一つでも欠けると物の見え方が悪くなる。

「明るさ」とは、視対象物の輝度（ある方向から見たときどれだけ明るくみえるか（輝き）単位：cd/m<sup>2</sup>）、又は光束発散度（人の目に感じる明るさ）を意味する。

「対比」とは、書物等の文字が読めるのは、文字輝度と背景（紙など）輝度との間に差があるためで、文字が同じ黒色であっても、背景の紙が白色と灰色とで読みやすさが異なるのは、文字の輝度と背景の輝度との割合が異なっているためで、この割合を「輝度対比」という<sup>4)</sup>。なお、輝度対比は最大値が1になるように計算式は作られている。



図2 反射グレア

## ICT教材と輝度対比

学校環境衛生管理マニュアル<sup>5)</sup>によると、照度と輝度の関係性は、目に直接関係するのは照度ではなく物体の輝度である。したがって、光を反射する能力の高いものが周囲にあれば明るく見え、周囲が反射能力の低い状況であれば、暗い感じに見えることになる。指摘しているが、電子端末も同様に、文字や形を明確に視認するためには高輝度であれば視認性は向上するが、明るすぎて目の負担が増大することから、低輝度で使用も検討すべきではあるが、児童生徒へ適宜輝度調整を指示することは現実的ではない。そこで、教材作成にあたり輝度対比を意識した配色の工夫が効果的と考える。

つまり、明るい背景は高輝度、暗い背景は低輝度であることを念頭に輝度対比が1に近似する配色により視認性が向上する。同じ輝度の視対象物であっても、背景輝度が高いと視対象物は暗く見え、反対に背景輝度が低いと明るく見える。

以上を踏まえ、照度とまぶしさの基準に、輝度を意識した授業への取組を提案し、今後ともさらなる知見を収集し、電子端末等の使用環境の向上に寄与したい。

- 1) 日本弱視斜視学会：<https://www.jasa-web.jp/general/myopia>
- 2) 文部科学省：児童生徒の健康に留意してICTを活用するためのガイドブック
- 3) 株式会社レックス：[https://www.rex-rental.jp/faq/product/1182/knowledge/luminance\\_illuminance](https://www.rex-rental.jp/faq/product/1182/knowledge/luminance_illuminance)
- 4) 薬事日報社：「学校環境衛生基準」解説2022
- 5) 文部科学省：学校環境衛生管理マニュアル



## シリーズ 92

## 「健康教育をささえる」

～養護教諭の現場から～

## ICT化の推進に伴う保健管理・保健教育の課題と展望

沼津市立沼津高等学校中部部 養護教諭 畠 菜津子

## 1. はじめに (学校紹介)

本校は、静岡県東部地区に位置する中高一貫校の沼津市立沼津高等学校の中部部である。生徒は受検を経て、東部地域の様々な地域から通学している。高等学校は創立76周年を迎え、全校生徒605名である。中部部は、各学年80名ずつ、全校生徒240名で今年創立20周年を迎える。

本校の学校教育目標は、明日の社会に貢献できる夢ある人材の育成「あすへのゆめをみつけ、あゆみ続ける」である。それを受けて学校保健目標は「健康安全の向上を図りながら自らの健康管理をし、心身のバランスが取れた生徒の育成」とし、学校保健活動を行っている。



## 2. 令和3年度から急速に普及したICT化

沼津市ではGIGAスクール構想に伴い、令和3年度当初に市内の全児童生徒へ持ち運び可能な端末が配付された。教職員にも基本的に一人一台配付されている。生徒は、学校の授業で毎日使うため自宅で充電をしてから学校へ持参している。家庭においても、毎日の健康観察や各教科の課題等の提出で使用している。

高等部は令和4年度の高校1年生から、今後のICT教育を見据え、入学時に一人一台端末の購入を各家庭にお願いし、全員が所持した上で授業で活用されている。高校2・3年生は学校の端末を使用している。

## 3. ICT化の利点と課題

ここからは、ICT化の利点と課題について、大きく変わった教育現場での1年から、養護教諭の立場で感じていることについて触れていきたい。

**【利点1】 アンケートや調査の集計が劇的に楽になったこと。**

フォームで生活習慣のアンケートをとった際、結果が自動的に集約され、集計作業の大幅な時間短縮ができ、結果の分析に力を入れることができた。

**【利点2】 コロナ関連で出席停止となった生徒が、自宅にてオンライン授業を受けることができるようになったこと。**

様々な科目で、可能な限り授業は毎日オンライン配信されている。出席停止期間が明けるまで学校に来られない生徒にとって、自宅でオンライン授業を受けることができたのは、「学びを止めない」ことに加えて、学校と離れてしまっている心理的ストレスを少しでも和らげることに繋がっていたように感じる。

**【利点3】 授業での活用はもちろんのこと、授業以外でも、生徒会活動や専門委員会などでも積極的に使用されていること。**

保健委員会でも、前年度に保健通信を発行する際、学年のメンバー間で編集画面を共有して作成部分を分担し、発行した。

上記のように教育活動において多方面で活用され多くの利点もある一方で、課題も多く感じている。

**【課題1】 低視力化の進行、画面を見るとき姿勢の問題、目や肩、首の疲れや頭痛の訴えの増加等の健康課題がある。**

その例として、本校の裸眼視力0.9以下の生徒は昨年度男子60.4%、女子63.6%であったものが、対象生徒は変わっているが、今年度は男子73.8%、女子68.5%と増加している。

**【課題2】 ICTの過剰利用と利用内容についての懸念がある。**

昨年度末に行った生活習慣アンケートでは、家庭でのゲーム、SNS、動画再生等の時間が平日一日どれくらいかを調査したところ、コロナ禍ということもあってか、3時間以上が最も多く全校の36.4%という結果となった。この質問はあくまで「家

庭での」使用時間であるため、学校での使用で画面を見る機会が増えていることを考えると、相当な長時間のスクリーンタイムとなっている。

本校は中高一貫校の利点を生かし、中等部創立当初から学校保健委員会を中高合同で実施している。昨年度の中高合同学校保健委員会ではコロナ禍の健康課題をテーマに話し合いを行った。PTA 役員の保護者から「子どもが画面をみる機会が圧倒的に増えた」、「子どもが何をしているのか、本当に必要な課題で端末を使っているのか、見えにくくなった」といったICT化における家庭での不安の声が多く聞かれた。出席していた学校歯科医の先生から、「リモート作業が増えているのは便利な反面すごく疲れます。なぜなら、直接会ったり話を聞いたりするときは五感をフル活用しているけれど、リモートは主に視覚と聴覚が中心だからです。リモートが増えると、大人でも子供でも疲れるのは自然な反応だとぜひ子どもたちに伝えてください。」との助言をいただいた。このお話は、終業式の保健部からの話でも伝え、ほけんだよりも掲載した。

#### 4. ICT 化の中の健康管理と健康教育

利点1に挙げたように、今年度からは朝の健康観察を中高共通のフォームで実施している。ICTに長けた高校教員が前年度のうちからシステム作りに尽力してくれた。これにより、毎朝入力された生徒の健康情報を学年部内でいち早く共有できるようになった。養護教諭は全校分を見ることができる。体の健康状態に加え心の状態の質問項目もあり、安定か不安定かを5から1までの数値で自己評価できるようになっている。すると、1や2にチェックを入れた生徒は赤く表示される。これにより、固定化している自己評価の低い生徒がいること、毎回ではなくても評価の低い日には、校内巡視の際に意識して観察をし、「ひょっとしたら保健室に来室するかも」という心構えを持つことができるなど、健康管理にICTを有効活用している。

日	月	年	日	時	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒	分	秒
364	+2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
369	0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
364	+2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
366	+2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
361	+2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
364	+2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
367	0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
361	+2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
367	+2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
367	+2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
360	+2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
361	+2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
364	+2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
367	0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
367	+2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
364	+2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
367	+1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

↑生徒がフォームに入力した結果が一覧になり一週間分反映される一例

健康教育の面では、端末の利用時間が増加したことによる目の疲れ等様々な体の不調を予防・改善するために、保健委員会では朝の会でストレッチの時間をもらい、一日1～2分程度でできる簡単なストレッチを、令和3年度後期から毎日継続している。画面を見る時間が増えたことによる目や肩周り、ひいては全身の疲れを自覚しながらストレッチをすることで、血流が良くなり少し楽になること、正しい姿勢を意識することなどを体感する機会としている。ストレッチで体を伸ばすことで少しでも気持ちよく一日を始められることを感じてもらいたいと考え、現在のところ朝の時間での活動を継続している。

ストレッチの内容は「短時間でできること」、「限られた空間の教室で行うために動きがダイナミックでなくても効果を感じられるもの」という視点で、生徒保健委員会で選んでいる。本やインターネットから探し、実際に保健委員が試して決定した。少しマンネリ化を感じると保健委員が独自に調べて新たなストレッチを追加したり、面白くて簡単そうな体操を委員と一緒に調べたりしながら生徒が主体的に取り組めるよう支援している。



#### 5. 最後に

コロナ禍において急速に広がったICT化は、今後も止まることはなく、より活用の範囲を広げていこうと推察される。活用による可能性は無限大である一方、子どもたちの健康安全が脅かされる懸念もあることを強く感じている。積極的に授業で活用するようという通知が出され、活用実践を話し合う場などは多いものの、同時に健康面を考えた取り組み、教員の健康に関する意識は高いとは言えないのが現状である。養護教諭は学校内でいち早く子どもの健康課題に気づき、キャッチできる立場である。さらに、心身の成長著しい中等部から高等部と6年間の経過を追っていくことの出来る中高一貫校の利点を生かし、進むICT化による健康課題やその対応等について、校内外への啓発をタイムリーにしていく必要性、またその責務もあると考える。子どもたちが健康への意識を高めながら上手に付き合っていくように、地域や家庭、学校医などと連携し、タイミングや内容を選定しながら働きかけていきたい。また、子どもたちの健康安全のために幅広い視点を持ち、養護教諭が常に勉強をしていくことが必要であると感じている。

### 全国健康づくり推進学校表彰校の実践③

## よりよい生活に向けて変わり続けるすこやかな城東っ子の育成 ～教師主体から児童主体の健康づくりへ～

令和3年度最優秀校 熊本市立城東小学校

### 1 学校紹介

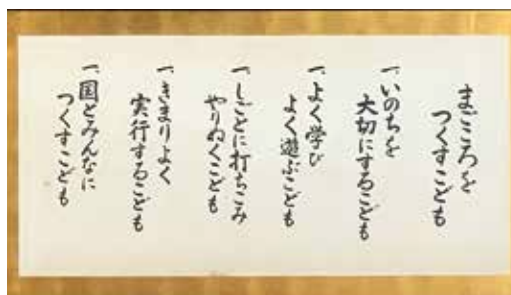
本校は、熊本市のほぼ中央に位置し、熊本城の北東に隣接している。校区には、市役所があり、市の政治、商業、文化の中心地であるが、児童の遊び場は少ない。

また、校区内に県下最大の繁華街や大型デパートがあり、夜は歓楽街となる。児童数は208人。地域や家庭の学校教育、健康教育に向ける関心は大きく協力的である。



### 2 学校経営方針と健康づくり

本校では、昭和44年に制定された校訓「まごころをつくす子ども」に則り、学校教育目標を「熊本城に象徴される質実剛健の風格を基調とし、児童の徳・知・体の調和的発展に努め、よりよい社会の担い手となる人材を育成する」とし、徳・知・体の調和のとれた全人教育を目指している。その基盤となっているのが、約60年にわたり継続している健康づくりである。



### 3 特徴ある教育活動「すこやかサミット」

#### (1) 重点課題

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための長期休業は、健康づくりを推進してきた本校児童にも大きな影響を与えた。いかなる状況においても、健康な生活について自ら考え、行動できるようにするために「児童主体の健康づくり」という視点から実践を見直し、改善を図ってきた。自ら継続していく実践意欲や実践力を育むために以下の3点に留意して取り組んだ。

- 6年生を中核とした学校全体の健康づくりの推進
- 「課題把握」「企画・運営」「実践」「成果の自覚」というPDCA
- ICTを効果的に活用した家庭・地域への啓発と連携



【第1回 すこやかサミット】



本校では、総合的な学習の時間「けんこうタイム」及び学校保健委員会「すこやかサミット」を中心に健康教育を推進している。4～6年生が「けんこうタイム」で追究した課題を「すこやかサミット」で発表し、児童・保護者・地域が一緒になって健康について考えている。

## (2) 活動実践

6年生が自分たちの生活を振り返る中で、課題意識が高まり、アンケート作りにつながった。自分たちでアンケートを作成し、分析を行い、第1回すこやかサミットで報告を行った。

2学期は、学校として改善すべき課題を設定し、4・5年生は、その中から追究したいものを選んだ。6年生は4・5年生の各グループに分かれて追究をサポートしていった。また、6年生の企画で「親子作戦会議」を実践した。

自分たちで考えた実践が実際に可能かどうか保護者と話し合った。児童からの相談に対して保護者からは「もっとこんな工夫ができるのではないか」「保護者の願いとして、こんなことを子どもたちにも頑張ってもらいたい」といった率直な意見が児童に伝えられた。

第2回すこやかサミットでは、校内テレビ放送と5教室に分かれたブース発表を交えながら実施した。6年生の保健委員会が進行を担い交流を深めることができた。



【親子作戦会議】



【第2回 すこやかサミット】

## (3) ICTを活用した家庭との連携

児童の健康課題は、日常生活を過ごしている家庭の健康課題でもある。親子で共に考えることが継続的な実践につながると考え、これまで家庭との連携の機会を作ってきた。保護者に来校してもらうことが難しい時期があり、ICTを活用して家庭との連携を図ることとした。

発表で用いた資料と発表の様子を録画した映像をタブレット端末に保存し、家庭で「親子作戦会議」を実施してシートに記入した。



【タブレット端末に保存している動画】

## 4 まとめ

児童自身が疑問に思ったり興味を持ったりしたことを最大限生かしながら学習を進めてきた。6年生にとっては自分たちが作り上げてきた達成感があったようである。与えられた課題ではなく、自ら課題を設定することが主体的な活動につながっていった。家庭との連携においては、タブレット端末の活用が有効であった。児童が作成した資料映像を家庭と共有しやすくなり、いつでもどの部分も見ることができた。取組を話し合う際に、学校全体や学年の傾向と自分とを比較して、自分のよいところや課題を見つめやすくなった。

# 児童生徒における口腔機能の維持向上 —新たに保険収載された口腔機能発達不全症について—

鶴見大学歯学部小児歯科学講座

教授 朝田 芳信

近年、児童生徒の口腔環境も大きく変化し、硬組織疾患であるう蝕（むし歯）は、有病率、一人平均う歯数ともに大きく減少している<sup>1)</sup>(図1)。一方で、歯の萌出時期の遅れや歯並びに問題を抱える児童生徒の増加により、口腔機能の維持向上への影響が懸念されている。口腔機能とは、食べる機能、話す機能、呼吸する機

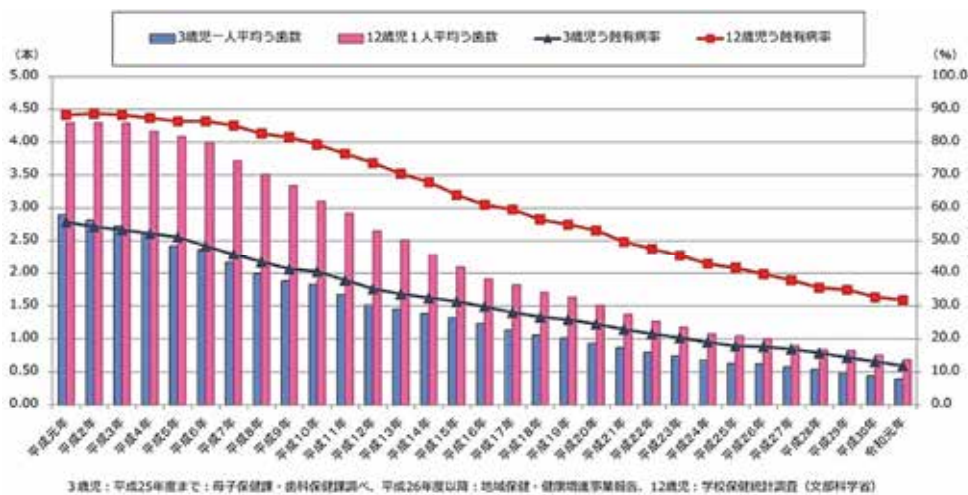


図1 う蝕有病率および一人平均う歯数の年次推移

能および表情をつくる機能であり、日常生活の質の向上に不可欠な機能である。そこで、小児の口腔機能の育成を推進していくための一環として、2014年6月に日本歯科医学会重点研究委員会が中心となり、全国の歯科医療機関（診療所）と未就学児の保護者を対象とした「子供の食の問題に関するアンケート調査」が実施された。保護者からみた「子供の食事の心配事について」のアンケート結果から、半数以上の保護者が「心配事がある」と回答している。そして、その心配事の中に、偏食する、食べるのに時間がかかる、よく噛まないなど、歯の生え方や口腔機能の発達と関りのある項目が挙げられた<sup>2)</sup>。そこで、2018年に健全な子供達への歯科的アプローチが必要であるとの認識のもと、『「食べる機能」、「話す機能」、または「呼吸する機能」が十分に発達していないか、正常（定型的）に機能獲得ができていない状態で、明らかな摂食機能障害の原因疾患を有さず、口腔機能の定型発達において個人因

子あるいは環境因子に専門的な関与が必要な状態』を口腔機能発達不全症と定義し、保険収載された。2020年の診療報酬改定から口唇閉鎖力検査が3か月に1回算定が可能になったが、男女とも口唇閉鎖力発育曲線はシグモイド曲線を描き、3～5歳ならびに12～15歳で顕著な発達が見られる<sup>3)</sup>(図2)。口腔機能発達不全症と診断された小児に対する口唇閉鎖力検査の目的は、口唇閉鎖力の評価ならびに改善を図るだけでなく、口腔習癖の改善の有無や歯列・咬合の発育状態を評価することでもある。2022年の診療報酬改定により、口腔機能発達不全症の対象年齢が見直され、15歳未満から18歳未満に引き上げられた。とくに、児童生徒を対象とした評価基準は、歯の萌出の遅れ、機能的因子による歯列・咬合、咀嚼に影響するう歯、偏咀嚼、構音障害、安静時の口唇閉鎖不全、口腔習癖、舌小帯の付着異常の診査項目をもとに行う。対象年齢が18歳未満となったことで、

出典：令和4年度診療報酬改定概要（歯科）  
厚生労働省保険局医療課、令和4年3月4日



永久歯列完成後の中学生や高校生までが診断の対象となる。学校における健康診断は、家庭における健康観察を踏まえて、学校生活を送るに当たり支障があるかどうかについて疾病をスクリーニングし、健康状態を把握するという役割と、学校における健康課題を明らかにして健康教育に役立てるといふ、大きく二つの役割がある。学校健康診断における検診項目の1つである歯及び口腔の疾病及び異常の有無に関しても、今まで以上に口腔機能の維持向上を念頭においた対応が求められる。

すなわち、学童期は、不正咬合や口腔習癖（舌突出癖、咬

爪癖、口呼吸など）の発症頻度が高まることから、口腔機能に問題を抱える児童は決して少なくないため、家庭と学校生活における健康観察を通じた疾病のスクリーニングが重要となる。一方、中学生や高校生では、口腔機能の問題を健康課題と捉え健康教育に役立てることで、生涯にわたる口腔健康の維持増進を図ることに繋げたい。

新型コロナウイルスのPCR検査陽性率がユニバーサルマスク着用を開始したところ、低下したとの報告<sup>4)</sup>があり、マスク着用の重要性が浸透している。そのため、児童生徒においても、学校においてマスク生活が日常となっているが、口呼吸の問題や口唇の乾燥を訴えるなど新たな問題が生じている。また、担任による児童生徒の口腔習癖や口呼吸への気づきが遅れるといった指摘もあり、学校における健康診断の重要性が増している。そして、健康診断において口腔機能に問題を抱える児童生徒の健康情報を学校歯科医からかか

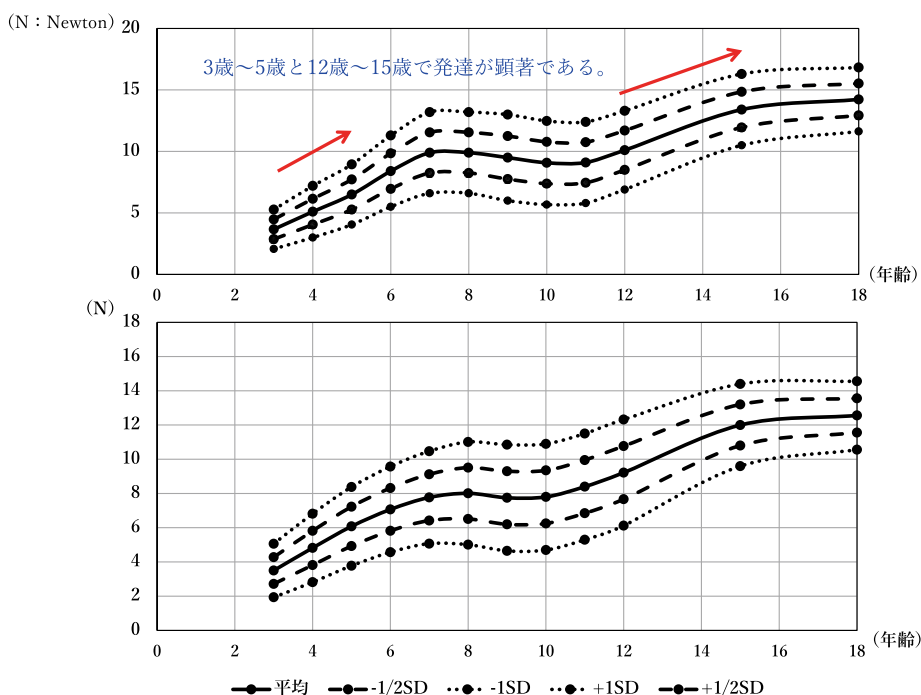


図2 口唇閉鎖力発達曲線（上段：男子、下段：女子）(文献3より引用)

りつけ歯科医に繋げることがより重要であり、かかりつけ歯科医は、口腔機能発達不全症の診断・指導・管理のねらいを十分に理解した上で、評価・対応を行う必要がある。

口腔機能発達不全症の対象年齢の見直しが行われ、対象者が18歳まで拡大されたことは大きな意味があり、1点目として、口腔機能の育成から維持向上を小児期だけの問題として捉えるのではなく、成人期に繋げるという視点で指導管理が可能となり、小児期、成人期、高齢期がシームレスに繋がることで、生涯を通じた口腔健康の実践が可能となったことである。2点目として、予てからの課題であった中学生・高校生の医療機関への受診行動（学童期以降、急激に医療機関への受診率が減少する問題）についても、対象年齢が拡大したことで、少しでも歯科受診行動に結びつけることの可能性が高まったといえる。

1. 厚生労働省：令和4年度診療報酬改定概要（歯科）厚生労働省保険局医療課、2022.
2. 日本歯科医学会重点研究委員会：「子どもの食の問題に関する調査」報告書：93-102, 2015.
3. Saitoh I, Inada E, Kaihara Y, Nogami Y, Murakami D, Ishitani N et al. The relationship between lip-closing strength and the related factors in a cross-sectional study. Ped Dent J, 27:115-120, 2017.
4. Wang X, Ferro EG, Zhou G, Hashimoto D, Bhatt DL. Association Between Universal Masking in a Health Care System and SARS-CoV-2 Positivity Among Health Care Workers. 2020, JAMA 2020 14;324(7):703-704. doi: 10.1001/jama.

# 「喫煙、飲酒、薬物乱用防止に関する指導参考資料」の改訂

兵庫教育大学大学院 教授 西岡 伸紀

上記資料は、令和元年度から3年度にかけて小学校編、中学校編、高等学校編が改訂された(下記 URL等参照)。本稿では改訂の経緯、内容、活用等について解説する。

<https://www.gakkohoken.jp/books/search?value=%E5%96%AB%E7%85%99>



## 1 改訂の背景

本資料については、学習指導要領の改訂及び社会状況やその変化を踏まえ、改訂が重ねられてきた。学習指導要領は、社会構造や雇用環境が大きく急速に変化し、予測が困難な時代とされる状況に対し、資質・能力として「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を明示し、その育成を求めている。社会情勢の複雑化は喫煙、飲酒、薬物乱用においても認められる。例えば、若年者の大麻乱用の急増、加熱式たばこや電子たばこ、ノンアルコール飲料等の拡大が挙げられる。上記の資質・能力の育成による薬物乱用等の危険行動の防止が求められる。

## 2 喫煙、飲酒、薬物乱用防止に必要な資質・能力

海外では、薬物乱用等防止教育の評価研究のレビューにより、効果的な指導内容や指導方法が明らかにされている。それによれば、指導内容には包括性が必要である。知識としては、喫煙、飲酒、薬物乱用の心身や社会への悪影響、それらの背景や開始要因、防止対策等が挙げられる。知識は、人や健康を大切にする態度や規範意識の形成にも有効である。加えて、ライフスキルが必要である。ライフスキルとは、日常生活上の様々な課題に適切に対処するために必要な心理社会的能力とされる(WHO)。ライフスキルの具体例には諸説あるものの、代表的なものとして、個人的スキルである意思決定や目標設定、社会的スキルであるコミュニケーション、さらにはストレス対処などの各スキルがある。また、スキル育成の基盤として自尊心が位置づけられることもある。指導方法については、ライフスキルの育成では参加型学習が重要視される。

ライフスキルは、複数のスキルから成るため、個人的な課題や対人関係の課題などに幅広く適用できる。また、単独のみならず複数のスキルの併用も可能なため、防止の有効性が高まる。例えば、対人関係の課題に対して、意思決定により選択肢を選び、その決定を相手とのコミュニケーションに反映できる。

知識とライフスキルは相互に関連づけることができる。例えば、喫煙、飲酒、薬物乱用に関わる知識は意思決定、誘われた場合の対処などに活用できる。一方、習得した知識は、それらの活用により深化するものと期待される。

## 3 資料の内容構成と使い方

本資料は「理論編」「実践編」「参考情報」から構成されている。理論編は「防止教育を進めるための考え方」、実践編は「毎時の授業の進め方」、参考資料は「喫煙、飲酒、薬物乱用に関する基本的情報」について述べている(図)。

実践編では、体育科、保健体育科、特別活動を中心に展開例を紹介している(表)。展開では、学習活動の導入・展開・まとめをコンパクトに示し、ポイントでは具体的な工夫や指導の仕方を説明した。また、展開がイメージされるよう、小・中学校編においては板書や掲示を例示した。資料やワークシートについ

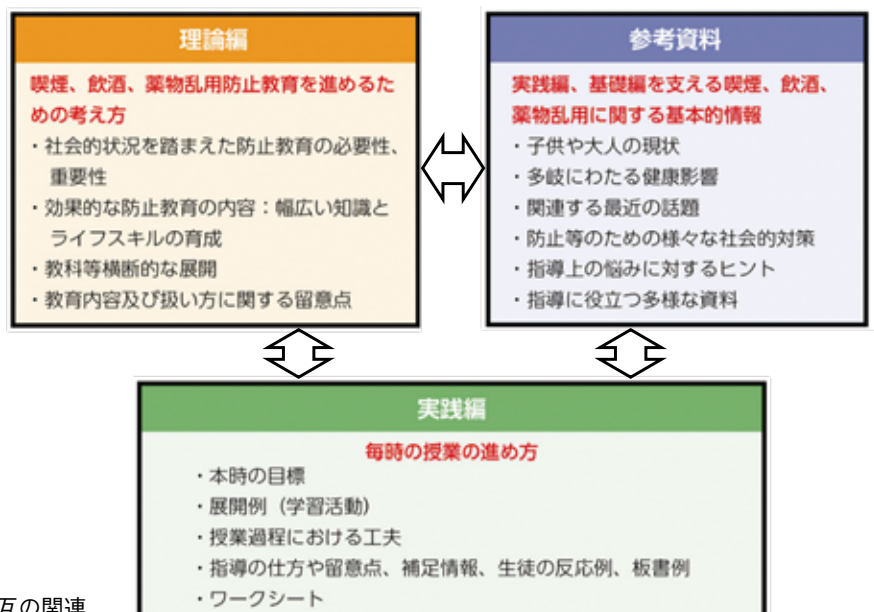


図 内容構成と相互の関連

では、利便性を高めるため概ね頁単位で表記した。

指導の際には、以上の3構成を適宜関連させて活用いただきたい。例えば、実践編における展開例を取り上げ、理論編における要点を踏まえ、参考情報における情報を活用して授業案を作成することが考えられる。



#### 4 教科等横断的な展開

知識及びライフスキル等の包括的内容の指導は、一回の授業だけでは実現できないため、教科等横断的に展開することが望まれる(表)。

知識については、小学校体育科保健領域、中学校保健体育科体育分野、高等学校保健体育科科目保健を中心に、薬物乱用防止教室を含む特別活動等においても指導される。また、同教科の内容である「不安や悩みへの対処」(小学校)、「自己形成」「欲求やストレスとその対処」(中学校)は、ライフスキルと関連づけることができる。

ライフスキルについては、主に特別活動において、自尊心形成、自己主張や拒否を中心としたコミュニケーション、意思決定、広告やメディア等の意思決定に影響する要因への対処、ストレス対処などを取り上げている。

さらに、特徴的な活動として、薬物乱用防止教室と連携したホームルーム活動、保健委員会活動における校内、家庭、地域との連携や情報発信等を紹介している。

#### 5 参考資料、コラムにおける情報

「参考資料」では、従来の健康への悪影響等の情報に加え、防止教育に有用な新たな情報を紹介している。例えば、中・高校生等若者の大麻の乱用状況の推移、高校生の薬物乱用経験率の詳細、中学生の大麻乱用に関連する社会的要因について、また大麻に関しては有害性、依存性、海外での合法化や含有食品の流布、関連法令等について詳細している。また、無煙たばこ、電子たばこの健康影響、ノンアルコール飲料の未成年使用の問題、喫煙、飲酒、薬物乱用に関する最新の社会的対策等を取り上げている。

コラムにおいても、現代的課題であるゲートウェイ・ドラッグ、一般用医薬品(市販薬)の乱用、危険ドラッグとその乱用への対策について解説している。

以上の情報は、防止教育に限らず、喫煙、飲酒、薬物乱用の諸問題や対策に関する理解にも活用いただきたく、適宜URL、QRコード等を付記している。

表 資料における防止教育の展開例

	体育科,保健体育科	特別活動
小学校	<p><b>中学年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・けんこうな生活</li> <li>・けんこうによいかんきょう</li> </ul> <p><b>高学年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不安や悩みへの対処</li> <li>・喫煙と健康</li> <li>・飲酒と健康</li> <li>・薬物乱用と健康</li> </ul>	<p><b>低学年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼく・わたしのよいところ</li> </ul> <p><b>中学年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の気持ちを伝えよう</li> <li>・広告の影響について知ろう</li> </ul> <p><b>高学年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お酒を勧められたとき(基礎編「断り方を考える」)</li> <li>・同上(実践編「実際に断る」)</li> </ul>
中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己形成</li> <li>・欲求やストレスとその対処</li> <li>・喫煙と健康</li> <li>・飲酒と健康</li> <li>・薬物乱用と健康</li> <li>・喫煙、飲酒、薬物乱用と健康</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信は力なり(自己肯定感の向上)</li> <li>・ストレスの対処法</li> <li>・意思決定のための予測力</li> <li>・先行き不透明なケースでの対応</li> <li>・伝え方を知り、断り方を知る</li> </ul>
高校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・喫煙と健康</li> <li>・飲酒と健康</li> <li>・薬物乱用と健康</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間関係形成①～“良い聴き方”～</li> <li>・人間関係形成②～“良い対応の仕方”～</li> <li>・キャリア形成</li> <li>・メディアリテラシー</li> <li>・学校行事(薬物乱用防止教室)と連携したホームルーム活動</li> <li>・特別活動(委員会活動) 飲酒に関する保健委員会の取組</li> </ul>



## 学校保健、その原点に立ち返る

(一社) 日本学校保健学会第67回学術大会

愛知学院大学心身科学部 教授

(第67回学術大会 大会長) 大澤 功

### Web形式による開催

昨年(2021年)11月5日(金)、6日(土)、7日(日)に、一般社団法人日本学校保健学会第67回学術大会が、愛知県日進市の愛知学院大学日進キャンパスで開催された。この大会は、2020年に開催される予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策のために1年延期となった。さらに開催形式も他の多くの学会と同様に、Webでの配信を主体とする形式になった。

大会ではWeb上に学術大会の特設サイトを開設し、大会長講演、特別講演、教育講演等のメイン企画を11月6日(土)と7日(日)に愛知学院大学日進キャンパスからライブ配信した。また、シンポジウム、一般発表等は事前に動画を撮影録画し、オンデマンドコンテンツとして配信した。その後、メイン企画もオンデマンドコンテンツに編集し、他のプログラムと同様に11月30日(火)まで、参加者がアクセスできるようにした。

### 学校保健活動の原点に立ち返る

近年、子どもたちの健康課題は多種多様化し、増加しているとの指摘が多い。実際に学校現場ではいくつかの問題が、次々と並行して発生し、その対応に追われる毎日となっている。こういった状況では、ついつい目の前の問題の対処に気を取られて、本質を見失うことがある。そこで、本大会では「学校保健、その原点に立ち返る」をテーマとして、改めてその原点を見つめ直すこととした。

メイン企画では、学校保健の原点のひとつが感染症(伝染病)対策であったことから、特別講演として国立感染症研究所長の脇田隆字先生に講師をお願いした。また、学校保健活動の実践の中心が養護教諭であることから、愛知教育大学前学長の後藤ひとみ先生にも講師をお願いした。教育講演では、学校現場で問題となる食物アレルギー対応、創傷処置、学校での事故防止、さらに、現場での実践を研究に発展させるための研究方法の4つの話題を取り上げた。

シンポジウムでは、今回のテーマそのものである「学校保健研究の原点にせまる－設立時の理念とその後の研究の展開から今後の方向性を探る－」をはじめとして8つの話題を提供した。一般演題は、録画した動画による口頭発表のみとしたが、164演題の応募があった。今回は特に新型コロナウイルス感染症関連が23演題と多く集まった。対面での質疑応答はできなかったが、特設サイト上で、座長制によるテキストベースでの質疑応答を実施した。

### 新型コロナウイルス感染症対策と養護教諭養成の方向性

本大会の計画は2019年に始まった。当時の健康課題としては、がん、糖尿病、高血圧症といった生活習慣病、あるいはメタボリックシンドロームに関心が高かった。「なぜ今さら感染症？」という声もあったが、「原点に立ち返る」としてあえて感染症の専門家に特別講演を依頼した。その後、新型コロナウイルス感染症が世界中に拡がり、改めて感染症対策の重要性が認識されることとなった。計画段階では決して意図したわけではなかったが、新型コロナウイルス感染症対策の中心として重責を担っている脇田先生のお話を聴くことができた。脇田先生の講演は、「新型コロナウイルス感染症 その現状と課題」と題して、中国の武漢で始まったとされる新型コロナウイルス感染症に対する国立感染症研究所の取り組み、その後

の国としての対応、さらには感染症のメカニズム、感染予防の基本等、まさに感染症対策の原点についての内容であった。

多種多様な健康問題が発生する学校現場において、新型コロナウイルス感染症対策の実践の中心も養護教諭である。後藤先生からは、このような状況において次世代の養護教諭をどのように育成するかについて、「新しい時代における養護教諭の実践・養成・研修の課題と展望～ニューノーマルやデジタル化等を見据えて～」と題して、お話をいただいた。養護教諭の業務には、「不易（どんな時代でも変わらないもの）」と「流行（時代の流れに合わせて変わるもの、変えなければいけないもの）」があるが、流行性（変化するプロセス）にこそ、不易の本質が見えてくるものであり、日々の実践、養成教育、卒後教育等にビジョンを持って主体的に取り組む必要があると述べられた。

## 教育講演のトピックス

保健室業務として外傷対応は多い。名古屋市立大学形成外科教授の鳥山和宏先生からは、保健室での外傷初期対応の基本について解説があった。また、近年食物アレルギーを抱える子どもは多い。その中でも重篤なアナフィラキシーショックへの対応は、適切に処置すれば確実に救命できることから養護教諭だけでなく教員にとって必須の知識と技術となっている。伊藤浩明先生（あいち小児保健医療総合センター長）には、食物アレルギーのメカニズムや対応等について、最新の知識に基づいてお話をいただいた。

学校安全の立場からは、名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授の内田良先生に、講師をお願いした。内田先生のお話は、学校敷地内での転落事故を例にして、「子どもにケガはつきもの」とするのではなく、「リスクを見える化」することによって、学校管理下における事故の減少が可能との提言であった。

以上3題の教育講演は、すべて現場ですぐに活用できる有意義な内容であった。しかしながら、子どもたちの健康を守るには、知識と技術の習得だけでは不十分である。新たな知見を得るためには研究は必須である。そこで、ひとりでも多くの養護教諭が研究的視点を持って活動することを期待して、古田真司先生（椋山女学園大学生生活科学部教授）に実践からエビデンスを生み出す方法とその課題についてお話をいただいた。

## 健康教育（保健教育）の重要性

日本学術会議生活習慣病対策分科会（委員長：八谷寛名古屋大学大学院医学系研究科教授）は、一昨年（2020年）8月に「生活習慣病予防のための良好な成育環境・生活習慣の確保に係る基盤づくりと教育の重要性」を発表し、学校における健康教育のさらなる充実、質の向上を図るべきと提言した。これを受けて、日本学術会議との合同企画として、市民公開シンポジウム「幼小児期・若年期からの生活習慣病予防」を開催した。ここでは、具体的な実践例が、歴史的検討と国際比較とともに紹介され、演者だけでなく動画収録時の参加者も加えて活発な意見交換が行われた。

健康教育の重要性については、高校での教科「保健」、学校医等が参加する保健教育、歯科保健教育、小学生への脱タバコ教育等、複数のシンポジウムでもテーマとなり、関心の高さとともに重要性を示すこととなった。

## 第68回学術大会に向けて

第67回大会ではWeb形式のために対面での直接的な意見交換ができなかった。しかし、従来の形式では並行して進行されるために参加できなかった企画にも、今回はオンデマンドのために、いつでも、どのセッションにも参加することができた。また、動画コンテンツを視聴するときも聞き逃した言葉があっても繰り返し再生することで確認ができ、理解を深めることが可能となった。

今年（2022年）の11月に第68回学術大会が開催されるが、新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中で、第67回大会の開催形式を踏襲すると聞いている。第68回大会では今回の経験を活用して、参加者にとって第67回以上に有意義な大会になることを願っている。

## 令和4年度各地区ブロック大会報告

### 第73回指定都市学校保健協議会

たえず変化する社会環境に応じて、健康で  
しなやかに生きる力を育む学校保健の推進

- 期 日：令和4年6月5日(日)  
開催方法：熊本城ホールからライブ配信、  
終了後アーカイブ配信
- 内 容：
- (1) 開催市挨拶 熊本市長 大西 一史
  - (2) 主催者挨拶 第73回指定都市学校保健協議会  
実行委員会  
委員長 宮村 健一郎  
熊本市教育長 遠藤 洋路
  - (3) 記念講演  
演題 「新型コロナウイルスワクチンの開発状況」  
講師 KMバイオロジクス株式会社  
代表取締役社長 永里 敏秋 氏
  - (4) 課題別協議会
    - ①第1分科会【健康教育】  
生涯にわたり主体的に心身の健康を保持増進する力を育む健康教育
    - ②第2分科会【保健管理】  
子どもの健康の保持増進を図るための保健管理
    - ③第3分科会【心の健康】  
子どもの豊かな心を育てるための教育活動と支援のあり方
    - ④第4分科会【地域保健】  
学校・家庭・地域の連携協働による学校保健活動

本協議会は、令和4年6月5日(日)に、熊本城ホールにて集合形式で開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、熊本城ホールからのオンライン方式としました。

開会式、全体協議会、記念講演の登壇者は、一部を除き会場にご集合いただき、記念講演においては、KMバイオロジクス株式会社代表取締役社長の永里敏秋様から「新型コロナウイルスワクチンの開発状況」と題して、最新のワクチン開発の取組状況についてご講演をいただきました。

課題別協議会については、提言者、指導助言者には会場にご集合いただき、分科会ごとにテーマに沿った形で、各政令市の研究成果を発表いただきました。また、チャット機能を使用した質疑応答を行い、現在の健康課題についての協議を深めることができました。



## 10月開催 (公財) 日本学校保健会主催研修会・講習会のお知らせ

### ■ 保健教育推進研修会

愛媛県開催：10月21日(金) エスポワール愛媛文教会館(定員：125名)  
横浜市開催：10月31日(月) 横浜市保土ヶ谷公会堂(定員：300名)

### ■ 「喫煙、飲酒、薬物乱用防止に関する指導参考資料」研修会

沖縄県開催：10月24日(月) 西原町町民交流センター(定員：250名)

- ・各開催の定員数は、会場定員の約半数で設定しています。
- ・詳細・お申込みは、ポータルサイト「学校保健」をご覧ください。(https://www.gakkohoken.jp/)
- ・その他の研修会・講習会開催情報は、ポータルサイト「学校保健」または本会HPで！(https://www.hokenkai.or.jp/)

参加無料



## 「BA.5 新型コロナウイルス感染症の 新学期対応について」YouTubeセミナーのご案内



学校が知っておきたい新型コロナウイルス感染症第7波に関する最新動向をお伝えしています

講師：岡部 信彦 (おかべ のぶひこ) 先生  
川崎市健康安全研究所 所長

\*公益財団法人日本学校保健会 YouTube チャンネルで公開中





## 虎ノ門 (176)

### ICT 機器と子供たち

昨今の新型コロナウイルス感染症拡大によって国のGIGAスクール構想が前倒しになり、ほとんどの小学校では電子黒板が導入され、児童らにICT機器端末が配布されています。学校薬剤師として私が心配したのは、学校環境衛生基準に示されている揮発性有機化合物の発生による健康被害や、子供たちの視力、姿勢などへの影響です。また教室内の適正照度の保持や、ICT機器画面への映り込み・まぶしさの防止も、平等な教育を受ける上では確認が欠かせません。そもそも子供たちはICT機器を使いこなしているのか、きちんと教育を受けられているのかが気になっていました。

学校薬剤師はくすり教育や薬物乱用防止教育などの健康教育を支援するため、学校で授業のお手伝いや講演などを行います。しかしこのコロナ禍で外部講師による教室や体育館での実施は見送られており、最近ではWebを活用した取り組みが増えています。私も、視聴覚教室から教室への講演の配信や、コロナ禍で学校閉鎖になった子供たちへの双方向での配信などを行いました。教育効果が心配でしたが、リアルの講演ではなくWebによる講演でも子供たちの積極的な参加態度が見られたのには驚きました。むしろ



家庭からの参加では今までより積極的に質問や反応が見られました。また、検査などで学校の教室を直接訪問する機会もあり、ICT機器を使う子供たちの様子を覗いてみると、ほとんどの子供たちは様々な格好で端末に触れており、何の抵抗もなくICT機器を操っている様子でした。

環境の整備や健康への気遣いは我々大人たちの責任ということで取り組んできましたが、子供たちは私たち大人より機器を使いこなし、ICT教育にスムーズになじんでいるようです。学校では新型コロナウイルス感染症対策をまだ継続する必要がありますが、新しい生活様式の中で児童らがコロナに負けず、たくましく生きているという実感がそこにはありました。

(会報『学校保健』編集委員会 委員 富永 孝治)



Wacoal Tsubomi School.

### ワコール ツボミスクールからのお知らせ

初経指導や保健指導などにお役立てください。

1

#### テキストと動画の無料配布

成長期のからだや下着について学ぶことができます。



第2回の申込は、2022年9月30日まで  
※発送は2022年10月上旬～中旬ごろを予定。

2

#### ツボミスクール養護教諭コース

下着指導やテキストの使用方法など、ツボミスクールの講師がわかりやすくご説明します。

対面やオンラインで開催しております。



詳しくは右記のお問合せをご覧ください。

お問い合わせやお申し込みなど  
詳しい情報はHPをご覧ください。

詳しくは下記のQRコードまたは  
ツボミスクールのHPをご覧ください。

ツボミスクール 検索

※スマートフォンからもご利用いただけます。



WACOAL

## 正しいコンタクトレンズ・ケア方法のご紹介

公益社団法人 日本眼科医会

学校保健委員会監修チラシをご用意しました!

コンタクトレンズ・ケアのご指導にぜひお役立てください。

▽▽▽▽ チラシ受付窓口はこちら ▽▽▽▽

<https://www.ophtecs.co.jp/csr/>

※数に限りがございますので、無くなり次第終了とさせていただきます。



Ophtecs



**Menicon** **コンタクトレンズや瞳に関するホームページをご用意いたしました！**  
**学校でのご指導にぜひお役立てください。**

**おすすめコンテンツ**

**1 はじめてガイド**  
 コンタクトレンズの魅力や種類、使い方などをわかりやすく紹介し、コンタクトレンズデビューを応援するコンテンツ。  
コンタクトレンズデビューはここから！  
**はじめよう**  
**コンタクトライフ**

**2 うんこ先生と学ぶ！ はじめてのコンタクトレンズ**  
 メニコンと「うんこドリル」が合体！うんこ先生といっしょに「目」について楽しく学べる特設サイトとゲームを公開。  
うんこ先生と学ぶ！ はじめてのコンタクトレンズ

**3 #カラコンのコレカラ**  
 目の安全を守りながら健康的にカラコン（カラーコンタクト・サークルレンズ）を楽しむための情報発信サイト。  
#カラコンのコレカラ


詳しくはこちら <https://www.menicon.co.jp/gh/>




**日本新薬**

**筋ジストロフィー患者さんの**  
**高校卒業後の自己実現** について解説します！

疾患の基本的な医学情報、患者さんの進路決定・自己実現に必要な要素や支援、利用可能な障害福祉サービス、文部科学省による生涯学習支援施策に関して専門家が解説します。また、当事者の方々の体験談や想いも併せて紹介します。  
 ※2022年開催Web市民公開講座のアーカイブ動画をご覧いただけます。

動画はコチラ 



小学校の校長先生・保健室の先生・担任の先生へ  
**11月8日「いい歯の日」に向けて**

**歯と口の健康の大切さを楽しく学べる教材と体験キットをお届けします！**

好評につき応募多数！

**募集期間** 2022年7月1日(金)～10月3日(月) **★コロナ禍での指導ポイント追加！★**

**応募概要** 11月8日は「いい歯の日」。その大事な日に向けて、「健全な歯」と「口の働きの発達」を支援できればと思っています。子どもたちに歯と口の健康の重要性を自主的に考えさせ、よく噛むことやむし歯予防を習慣づけさせることを目的として、見て学べる指導用DVDやご家庭で体験できるガムなどをセットでお届けいたします。

**募集対象** 全国の小学校400校／4～6年生対象 ※応募多数の場合、抽選。 ※キットの到着をもって当選通知とさせていただきます。

**教材発送時期** 2022年11月初旬到着予定 ※到着日は前後する可能性があります。

**セット内容**

※セット内容は変更になる可能性があります。

**授業内(学校)で使うもの**

- ・保健室に掲げて、注意喚起！歯と口の健康ポスター
- ・授業で楽しく鑑賞！教材DVD
- ・子どもに将来を考えさせよう！健康宣言シート
- ・DVD鑑賞後に記入式で振り返る！ワークシート
- ・色の変化で噛む具合をチェック！咀嚼チェックガム

※先生のための指導手引きを改訂しました！

**復習(自宅)で使うもの**

- ・学んだ内容を復習できる！教材冊子
- ・保護者にも共有！ご案内チラシ
- ・キシリトール入りガム
- ・咀嚼チェックガム

**申込方法** ①学校名 ②担当教諭名 ③対象学年(4～6年生)毎の希望人数 ④学校住所 ⑤連絡先(電話・FAX)  
 ※①～⑤を白紙等にご記入いただき、FAXにてご応募ください。 ※教材の対象は高学年となります。

**申込先：FAX 03-3237-9802** 監修：(公財)日本学校保健会  
 歯の健康づくり講座事務局(オックスフォード・インターナショナル内) 電話 03-3237-9820 協力：株式会社ロッテ  
 電話お問合せ受付 / 10:00～17:00(土・日・祝日を除く) ※電話対応受付時間は変更になる場合がございます。